

簡易被覆によるカンキツ「不知火」の安定生産

農業研究センター 果樹研究所 常緑果樹部

担当者：平山 秀文

研究のねらい

「不知火」は樹勢が弱く、樹冠拡大が遅れるために他のカンキツ類に比べ早期より安定した収量が得られない。そこで「不知火」の苗木植栽樹と高接樹を供試し、簡易被覆栽培が生産性に及ぼす影響について検討した。なお、ビニル被覆は3月中旬(発芽前)に開始し、7月上旬に一旦除去、再度11月下旬から1月下旬の収穫期までとした。

研究の成果

- 1 「不知火」を簡易被覆栽培すると樹冠拡大が良好で、苗木植栽樹で露地に比べ1.6倍、高接樹では1.8倍の拡大がみられる。
- 2 1樹当り収量は、平成6年度では露地に比較して苗木植栽樹で2.1倍、高接樹で1.7倍とそれぞれ多く、累積収量も、苗木植栽樹は10年間で2.6倍、高接樹は6年間で1.9倍の増収となる。
- 3 果実品質は、糖はやや低くなるが、減酸が早く、食味が向上するなど果実の品質向上、安定生産に有効な方法である。

普及上の留意点

- 1 発蕾期から生理落果期の最高温度を28℃以下で管理する。
- 2 収穫期は1月中～下旬とする。

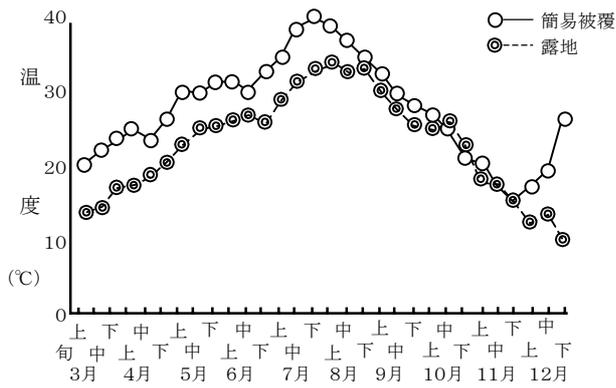


図1 簡易被覆の最高温度推移（平成7年度）

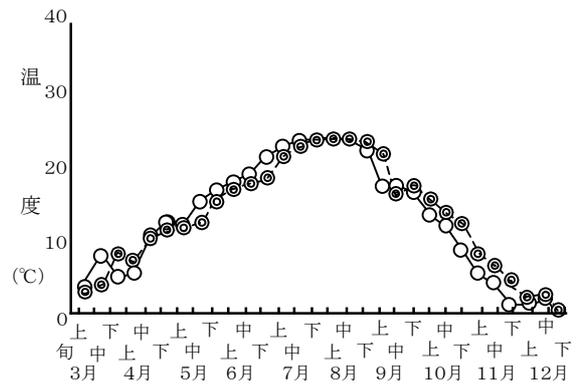


図2 簡易被覆の最低温度推移（平成7年度）

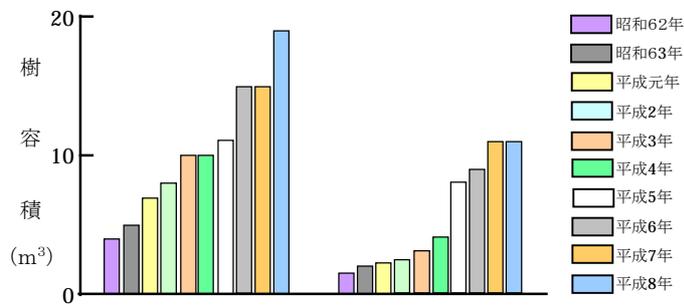


図3 苗木からの樹冠容積の推移（昭和60年1年生苗木植付け）

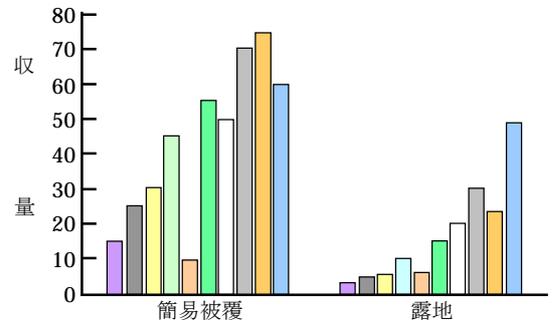


図4 苗木からの1樹当りの収量推移

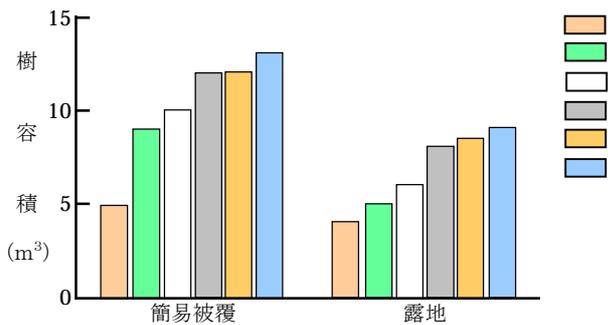


図5 高接樹の樹冠容積の推移（高接 平成2年度）

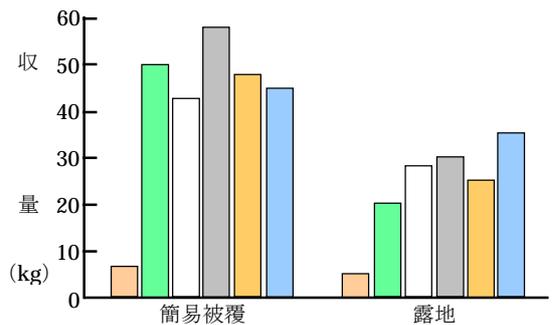


図6 高接樹の1樹当りの収量推移